

「女子中高生夏の学校 2012」参加報告

日本物理学会 男女共同参画推進委員会委員 興治文子

2012年8月9日から11日の日程で、国立女性教育会館にて行われた「女子中高生夏の学校 2012(以下、夏学)」に日本物理学会として参加した。この事業は、科学者・技術者、理工系大学生との対話、交流を通して女子中高生が科学・技術の分野に自分の新しい可能性を見いだすことをねらいとして、合宿形式の体験型サイエンスプログラムを実施したものである。あわせて、保護者、教員向けプログラムもあった。今年は生徒118名、教員14名、保護者15名の参加であった。共催、協賛している学会等は全部で30あり、日本物理学会は協賛での参加である。表1に夏学のプログラムを示す。

表1 女子中高生夏の学校 2012 の参加生徒用プログラム

	8月9日(木)	8月10日(金)	8月11日(土)
午前		・才媛双六(キャリア教育)	・サイエンスアンバサダーII
前		・サイエンスアドベンチャー(実験講座)	・夏学の振り返り ・サイエンスアンバサダー任命式 ・閉校式
午後	・開校式 ・サイエンスアンバサダーI ・キャリア講演 柳優さん(日本IBM) 永松愛子さん(JAXA) ・女性研究者・技術者の職場訪問 JAXA 廣瀬史子さん 峠千尋さん	・サイエンスアドベンチャー ・国際交流(韓国の子中高生物理合宿とSkype中継) ・ポスター・キャリア相談 ・写真撮影	
夜	・サイエンスバトル ・天体観測	・キャリアプランニング ・研究者やTAへのキャリア・進学相談	

具体的な支援としては、物理の魅力伝えるような物理学の研究分野を紹介したポスターの展示と物理実験講座の出展を行った。前者には嘉規香織委員長(静岡大)、興治(新潟大)、後者には長谷川修司氏(東大)が主に担当した。ポスターでは、大学に進学したときに勉強する物理の内容や研究の話、将来の進路などについて生徒たちは熱心に聞いていた。物理実験講座では、物理オリンピックの国内大会を兼ねている物理チャレンジで出題された問題である「大気圧を測ろう」を題材として、7名の中学3年生から高校2年生が参加した。水の入ったコップに厚紙を置いて逆さにしても水がこぼれないようなようすを見て、生徒たちは驚いたようすであった。

その他、鳥養映子氏(山梨大、元・男女共同参画推進委員会委員長)がこの事業の全体の運営において中心的な役割を果たしていた。また、プログラムの国際交流事業においては嘉規委員長と湯浅富久子氏(高エネ研、前・男女共同参画推進委員会委員)が生徒が英語で交流する際にアドバイスをするなど、補助を行った。興治も企画運営委員として、教員向けプログラムの一部を担当した。